

第1回北陸三県がん哲学外来合同シンポジウム  
金沢がん哲学外来代表

(金沢大学附属病院緩和ケアセンター長) 山田 圭輔

平成 28 年 11 月 20 日 (日) に金沢大学保健学類講義室で、北陸三県のがん哲学外来関係者による合同シンポジウム「これからのがん哲学外来～医療の隙間を埋めるものは何か～」が開催された。福井がん哲学外来の宗本義則医師 (福井県済生会病院) に司会を担当して頂き、患者会 (萌の会) 代表の和田真由美さん、福井がん哲学外来の車屋知美臨床心理士 (福井県済生会病院)、富山県立中央病院がん哲学外来の竹川茂医師および金沢がん哲学外来の筆者がシンポジストとして参加した。

他者との交流、想いを共有する、話す、寄り添う、使命を生きる、お茶を飲むなど多くの共通する点が述べられた。さらに福井からは、毛髪や爪のケア、手芸、ペット、ヨガ、音楽療法など様々な取り組みが紹介された。

富山からは、地域の基盤となっている立山連峰の自然と院外でのメディカルサロンの活動が紹介された。金沢からは、専門外来相談では俯瞰的 (哲学的) な視点、生と死を考えること、レジリエンス (折れない心) を重要視していることを紹介した。患者会代表の和田さんからは、これらの活動が目的を見失ってしまうことがないように、「誰のために、何のために」という活動の原点を常に思い出すよう指摘があった。

全国でがん哲学外来やがんサロンなど様々な試みがなされている。しかし、各施設だけではつい目標を見失い活動の方向性に迷ってしまうこともある。積極的に活動しているがん哲学外来同士が意見を交換することで、活動の原点を思い出し、互いのエネルギーを受け取り合うことは有意義であった。今後もお互いの活動と連携を継続していくことを確認した。



シンポジストと金沢がん哲学外来スタッフの皆さん

第23回金沢がん哲学外来  
～北陸三県のがん哲学外来連携特別企画～  
福井県済生会病院 車屋 知美

今回の会は、金沢、富山、福井の三県が集まるという全国初の試みでした。シンポジウムとメディカルカフェ「い〜じい」の二部構成で、私は第一部のシンポジウムにシンポジストとして参加させていただきました。シンポジウムは患者会『萌の会』代表の和田真由美さんのお話から始まり、福井、富山、石川それぞれのがん哲学外来の報告と進んで行く中で考えさせられたのは和田さんの「誰のために？何のために？を考えて運営する必要性」と、「患者さん自身の自立を妨げない関わりを」という言葉でした。やはり当事者の方の言葉というのは心に強く響きます。

その他にも、たくさんのがんサロンや集まりに参加され、今後のがん哲学外来メディカルカフェに期待されているからこそその忌憚なき思いを聞く良い機会となりました。がん哲学外来のモットーの中に、「偉大なるおせっかい」がありますが、私たち医療者は余計なおせっかいをついついしてしまう傾向があるな〜等、これまでを振り返り考えることができました。そして、富山、石川のがん哲学外来に関わる方々とお話ができ、良いエネルギーをいただきました。こうやって、北陸三県の会が第二回、三回・・・と継続し良い循環となっていくのだろうと感じられる会でした。

うさぎ追いし ～山極勝三郎物語～  
劇場公開日 2016年12月17日



佐久、上田、長野では  
先行上映中!

がん哲学外来研修センター (佐久市前山 321-3)



mail : kenkokobo@hb.tp1.jp  
(編集発行責任者：星野 昭江)